

「知床世界自然遺産地域における生態系管理のための指標開発」に関するワークショップ

知床は屋久島および白神山地に続いて、2005年に世界自然遺産に登録されました。しかしながら、自然遺産地域に生息するエゾシカの個体数増加と分布拡大にともなう食圧の高まりにより、大規模な植生後退が進行しつつあります。

また、世界自然遺産を監督するユネスコ世界遺産センター、国際自然保護連合、世界遺産委員会は、知床世界自然遺産地域連絡会議に対し「シカによる食害の許容限界を明確な指標により示す」よう勧告を行い(注)、2012年までに勧告の実施状況を報告するよう求めています。

このワークショップは、これまで知床調査に関わってきた研究者、知床以外の生態系管理に関わってきた研究者がこれまでに得た成果を報告し、知床世界自然遺産地域における生態系管理のための指標開発に対して具体的提言を行うことを目的としています。

(注)ユネスコ世界遺産センターによる勧告

- 勧告10 遺産地域内の自然植生に対するエゾシカによる食害が許容可能なものが許容可能でないものかの限界点を明らかにすることができるような明確な指標を開発すべきである。
- 勧告11 知床半島エゾシカ管理計画と関連する実行計画の実施を継続すべきであるが、抑制措置が、遺産地域のエゾシカの個体群、生物多様性、生態系に及ぼす影響を注意深く観察すべきである。

2009年10月29日(木) 10:00~17:00

(独)森林総合研究所北海道支所大会議室

10:00-10:10 開会・趣旨説明 川路 則友(森林総研北海道支所)

[基調講演]

10:10-10:20 「生態系管理とシカ管理」 小泉 透(森林総研野生動物)

[第1部]知床生態系管理が目指すもの

10:20-10:50 「知床自然遺産地域におけるエゾシカ管理計画の概要と課題」
梶 光一(東京農工大学)

10:50-11:20 「知床自然遺産地域におけるシカが森林へ及ぼすインパクト評価」
石川 幸男(専修大北海道短大)

11:20-11:50 「知床岬エゾシカ密度操作実験開始後の植生変化」
宮木 雅美(酪農学園大学)

< 11:50-13:00 昼 食 >

13:00-13:30 「知床自然遺産地域におけるモニタリング調査の現状」
山中 正実(知床財団)

13:30-14:00 「知床の適正な管理に向けて整備された DB について」
立木 靖之(エンビジョン)
< 14:00-14:20 質疑応答 >

[第2部]生態系管理のための新たな視点

14:20-14:40 「シカとササの相互作用の動態に基づく森林生態系管理」
日野 輝明(森林総研関西支所)

14:40-15:00 「菌根菌の機能と生育に及ぼす立地条件の影響」
山中 高史(森林総研森林微生物)

15:00-15:20 「生態系管理における GIS 利用」
近藤 洋史(森林総研九州支所)
< 15:20-15:40 休 憩 >

15:40-16:00 「北方針葉樹の天然更新様式」
飯田 滋生(森林総研北海道支所)

16:00-16:20 「希少植物の保全手法 - レブンアツモリを例にして - 」
河原 孝行(森林総研北海道支所)

16:20-16:40 「環境指標生物としてのコウモリの可能性」
福井 大(森林総研北海道支所)

< 16:40-17:00 総合討論 >

17:00 閉会